



診断士試験の合格を勝ち取った皆さんは、実務補習と実務従事のどちらを選択するのだろうか。合格者は、コンサルタントとしての実務経験を経て、資格の登録申請が可能となる。時間をかけてじっくりと経験を積みたい人、少しでも早く登録をしたい人など、登録までの道のりはさまざまだ。本章では、合格者が自身に合った道りを選択できるよう、ここ3年以内に登録した診断士157名へのアンケートをもとに実務補習と実務従事の選び方について解説していこう。

1 登録までの道のり

(1) 実務経験を得る3つのパターン

コンサルタントとしての実務経験を得るには、主に3つのパターンがある。

- ①実務補習を15日以上受講する
- ②実務に15日以上従事する（実務従事）
- ③実務補習と実務従事を組み合わせて15日以上実施する

これらのうち1つを選択し、2次試験合格から3年以内に実施する必要がある。それぞれ実務内容や日程、費用は異なるため、自身に合ったものを選択したい。診断士の受験者には会社員が多く、「本業との両立」という視点も大切だ。

(2) 診断士157名の選択

今回、アンケートに答えてくれた診断士157名は、どのパターンを選んだのだろうか。

図表1 157名の診断士が選んだパターン

| | | |
|----|-----------------|-----|
| 1位 | 実務補習と実務従事の組み合わせ | 73名 |
| 2位 | 実務補習 | 65名 |
| 3位 | 実務従事 | 19名 |

最も多かった回答は、実務補習と実務従事の「いいとこ取り」ができる「実務補習と実務従事の組み合わせ」であった。

まずは、全体の88%に当たる138名が受講した実務補習について見ていこう。

2 実務補習を知る

(1) 実務補習とは

実務補習は、5日間で1つの中小企業に対して、現状分析→課題設定→解決策の提案を行う総合診断の場である。1班5～6名程度で、経営戦略・営業・生産管理・人事労務・財務・情報から1人1つ以上の役割を担当する。班ごとに付く指導員の指示の下、コンサルタントの基礎を学んでいく。期間は、5日間と15日間のコースがある。15日

間コースは、5日間の内容を短期間で3回繰り返していくことで、実力を高めていく。

(2) 実務補習を選択した理由

では、138名の診断士は、なぜ実務補習を選択したのだろうか。

図表2 実務補習を選択した理由（複数回答）

| | | |
|----|--------------|-----|
| 1位 | 早く登録がしなかったから | 74名 |
| 2位 | 自分の都合と合ったから | 66名 |
| 3位 | 本業との両立ができるから | 43名 |

1位の「早く登録がしなかった」と回答したのは、「15日間コース」および「実務補習と実務従事の組み合わせ」の選択者であった。15日間コースは、1度の申し込みで登録要件をクリアできることが魅力である。ただし、15日間の日程はすべて決まっ（平日も含む）、全日参加する必要がある。1日でも都合が合わない場合は参加できない、狭き門だ。

一方、実務従事は実務補習よりスケジュールが柔軟で、平日夜間や土日中心が多いため、「勤務しながら早く登録をしたい」という人が実務補習と組み合わせる場合が多い。

また、「5日間コース×3回」という選択肢もある。異なる時期に5日間コースを受講するやり方だ。受講の間隔を空けることができるため、本業との両立がしやすいとの回答であった。

(3) 実施地区・実施時期など

実務補習の開催場所は、札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・福岡の全国7地区である。

各地区の指導員数や実施企業数の関係から、募集定員が決まっている（札幌、福岡を除く）。東京の場合は、15日間コースは140名、5日間コースは260名となっており、初日で枠が埋まる場合もある。受付は先着順となっているため、希望する地区へは早めに申し込みたい。料金は1回あた

り約5万円、3回受講すると約15万円となる。

開催時期は、冬と夏の年2回。冬季は2～3月、夏季は7～9月に開催される。今年度も合格発表後から申し込みが開始となり、名古屋地区は2021年2月4日（休）、それ以外の6地区は2021年2月5日（金）から1日目がスタートする。

図表3 東京の5日間コース（2021年2月）

| | |
|-----|----------|
| 1日目 | 2月5日（金） |
| 2日目 | 2月6日（土） |
| 3日目 | 2月13日（土） |
| 4日目 | 2月14日（日） |
| 5日目 | 2月15日（月） |

この5日間の中に企業へのヒアリング、報告会も含まれている。2日目と3日目の間は1週間ほど空いているが、この期間は自主学習となる。少なくとも、初日から最終日までの期間はスケジュールに余裕が必要だ。

(4) 実務補習のカリキュラム

実務補習は、全国同じカリキュラムで行われている。具体的に何を行うのか、一般的な流れは以下のようなものだ。

①事前準備

初日の4～5日前に、指導員から診断先企業の概要や事前準備作業の指示がメールで送付される。インターネットや図書館などを利用して企業や業界に関する情報を集め、経営者ヒアリングの内容を決めておく。

②1日目

班メンバーとの顔合わせ。午前中に役割分担を決め、ヒアリングの打ち合わせを行う。午後から経営者インタビューを実施する。

③2日目

ヒアリングの内容をもとに提案の方向性を決める。自主学習期間は個人作業となるため、ここで方向性を確定させておくことが重要である。